

0.G アドバイザーからのメッセージ



高専が作り出す“環境”とは？

松田 寛子 2005年度 物質工学科卒業(現 化学・バイオ工学科)
日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 農産食品学教室 講師

みなさん、こんにちは。さて、今みなさんは自分の将来をどうしていこうか、色々考えている頃かと思います。実は私も一児の母であるため、我が子の行く末を心配される保護者様のお気持ちも痛いほどわかります。この記事を通して、「高専」で学ぶことについて、みなさんと保護者様の進路選択に少しでも貢献できれば本望です。

私は2006年3月に現在の化学・バイオ工学科を卒業しました。先に申し上げると…私は高専在学時代、優秀ではありませんでした(笑)。ここでお話をさせていただく内容は、成績そこらだった女子学生の高専話です。ですが、高専在学中から「食」については人一倍興味を持っていました。母が作るご飯が大好きだったことがきっかけでした。高専卒業後は、念願の食品に関する研究をするために、東京海洋大学の食品生産科学科へ編入学しました。その後、大学院では千葉大学に移って、最高学位の博士号を取得しました。さらに自分の研究スキルをより一層高めたいと思い、世界トップレベルの研究者が集まる理化学研究所で修行してから、国立大学の教員を5年経験して、今現在は私立大学の教員となって5年目になります。私は、「教育者」でもあり「食品科学分野の女性研究者」です。学生の未来に関われたり、自分の「食品」に関する研究結果を世界に発表したり、とてもやりがいのある職業です。

高専で成績そこらだった私が、なぜ研究の道まっしぐらで来られたのか…。それは、とにかく“環境”だと思います。高専の教育の質、先生方のありがたい手厚いフォローは大学以上です。確かに勉強は大変ですが、それは、ハイレベルな専門分野を早い段階で学ぶためです。15～20歳のなんでも吸収できる年齢だったが故に、知らぬ間に「挑戦する力」「乗り越える力」「楽しむ力」が身についたようでした。これらの力こそが、高専卒業後の国立大学への高い進学率や高い就職率につながっているのだと強く感じます。そして、何よりも人生の基盤ができたように思えました。高専が作り出す“環境”で学べたことは、いつ振り返っても大正解だったなあと思います。

男女共同参画・キャリア教育支援室の女子学生支援

1. 女子学生に対するキャリア・進路支援

2. 女子学生に対する勉学生活支援

3. 女子中学生の入学支援

キャリア・コンサルティング実施日／
毎週水曜日午後 1:00～5:00

奥 寺 絵 里／2級キャリアコンサルティング技能士
(株)飛馬オープンカレッジいわき校

[コミュニケーション情報学科3期生(現 ビジネスコミュニケーション学科)／いわき市立玉川中学校]



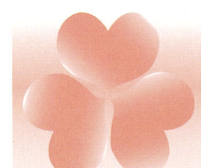
奥寺絵里さん



発行日／令和5年3月24日
福島工業高等専門学校 / 男女共同参画・キャリア教育支援室発行

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30

URL <https://www.fukushima-nct.ac.jp>

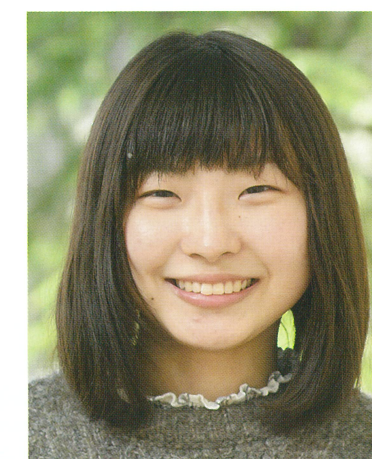
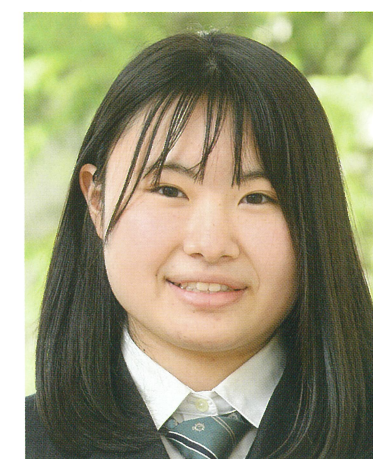
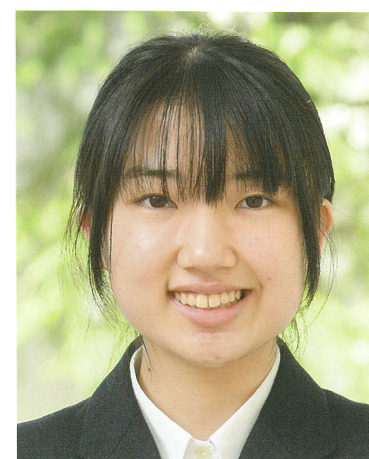
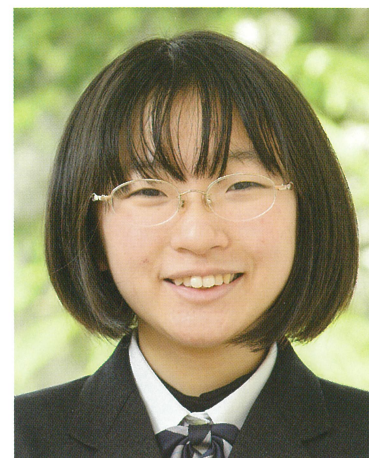


女子中学生のみなさんへ

NEW START

No.15

未来へ向かって輝く福島高専女子!!



福島工業高等専門学校 / 男女共同参画・キャリア教育支援室

未来へ向かって輝く福島高専女子!!

やりたいことを好きなだけ

つかだ あゆき
塚田 愛由希
機械システム工学科3年

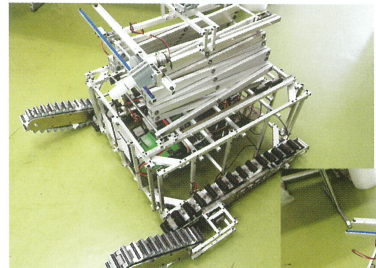


中学の頃から憧れていた廃炉ロボコンに今年初出場し、特別賞をいただきました。

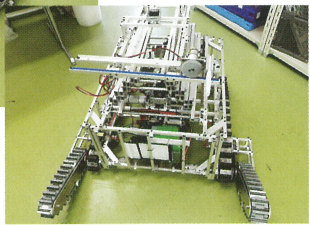
大きなロボットを作るのは初で、試作の失敗に悩み、試行錯誤を繰り返しました。

完璧な完成ではなかったものの、周りの協力もあって、高めの段差を越えられるロボットになりました。アイデア実現の難しさ、つくったものが動いた時の喜びなど、多くを味わうことができました。

将来は、高専での経験を活かして、福島第一原発の廃炉に携わる中の一人になれたらと考えています。



廃炉ロボコンで活躍



探求心を養う

さとう いずみ
佐藤 泉
電気電子システム工学科3年



私は、2年次に、授業の一貫であるミニ研究を通して「鳴き砂」について研究しました。はじめは何も知らなかった鳴き砂について理解を深め、約1年間という長い期間をかけて学内での調査及び自ら海岸へ足を運んだ現地調査に取り組みました。それらは、普段の授業では学ぶことのできない、自分のなかにある“なんで？”という疑問を自ら研究し、解決する貴重な経験をさせてくれました。疑問の探究は“わかる”ことの楽しさ、そして新たな発見から人生を豊かにしてくれます。皆さんもそんな経験を福島高専でしてみませんか？



ミニ研・鳴き砂に関する活動にて活躍

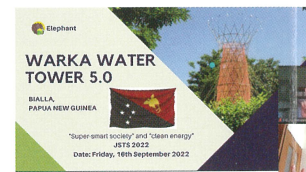


自己改革で新たな挑戦へ

しのざき あゆ
篠崎 杏夢
化学・バイオ工学科3年



私は、少しでも色々な経験をしたいと思い、JSTS2022及びSDGsWebinar2022に参加しました。JSTSではすべて英語で話し合うので、英語が堪能ではない私にとっては正直辛かったです。ですが、徐々に耳が慣れ、話にもついていくことができました。また、色々な国の学生とも交流ができ、とても良い経験になりました。Webinarでは、JSTSで学んだことや化学分野の知識を活かしながら、話し合うことができました。ディスカッションだけでなく、Sonyやapple本社で働いている人たちの話を実際に聞き、挑戦への意識が変わりました。さらに、プレゼンカやコミュニケーションカも身につきました。皆さんも失敗を恐れずたくさんのことに挑戦してみてください。



JSTS2022およびSDGsWebinar2022に参加



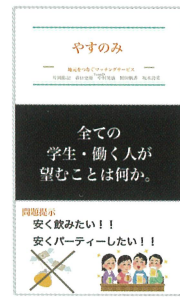
迷ったらやってみる

ひるた ほのか
蛭田 帆香
化学・バイオ工学科3年



私は、JSTS2022に参加して、自分の英語力がまだだだと痛感しました。

発表メンバーが全員初対面中、最終日に発表を終えたときには疲れがどっと出ましたが、やり切ったことへの達成感がありました。今までは、グループワークというものに苦手でしたが、JSTS2022に参加したことで意識が変化し、SDGsWebinarにも参加してみようと思ったしました。SDGsWebinarではSDGsについての講義も多く受けることができ、SDGsが今までよりも身近なものになりました。今年度、JSTSとSDGsWebinarに参加できたことはとても良い経験になりました。



JSTS2022およびSDGsWebinar2022に参加



ここにしかない経験と成長

いりくら みこと
入倉 美琴
化学・バイオ工学科4年



私が寮生活を始めて4年目となりました。期待2割不安8割で始めた寮生活でしたが、現在は女子寮長を務めながら楽しい毎日を送っています。最初は、初めての環境やルールに困惑するかもしれませんが、慣れてしまえば人との関わり方・生活力・礼儀が身に付く唯一無二の場所です。寮で出会った友達や先輩後輩とは、ここしか作れないたくさんの思い出ができ、お互いに大切な存在になると思います。皆さんの入学入寮を磐陽寮で心からお待ちしております！



女子寮長として学生寮に貢献



失敗を恐れず挑戦する！

さかわ さくら
佐川 さくら
都市システム工学科3年



私は、将来海外で活躍できる土木技術者になりたいという思いから、高専英語ブレコンに参加しました。もともと英語に自信があるわけではなく、馴れない英語でスピーチすることは想像以上に大変でしたが、たくさんの先生方の支えもあり、全国大会で優勝することができました。高専は、大学受験を受けなくてよいので自分の将来と向き合う時間が十分あります。中学生の皆さんも福島高専で失敗を恐れず、将来に向けて何かに挑戦してみませんか？



高専英語ブレコン全国大会優勝



Let's challenge at KOSEN!!

おおやま りり
大山 凛々
よしだ とわこ
吉田 叶和子
ビジネスコミュニケーション
学科2年



高校生ビジネス・グランプリでベスト100に選出



私たちは、日本政策金融公庫が主催する高校生ビジネスプラン・グランプリにおいて、ベスト100に選出されました。

私たちが当グランプリへの応募を決めたのは、高専の授業でビジネスプランを考えることの楽しさに気づいたことがきっかけでした。実際のプラン作成は、専門的な知識も少なくとても大変でした。しかし、高専の先生方や日本政策金融公庫の方の助言や指導を受けて、プランを完全な形に仕上げることができました。

今回の経験を通して、自分の好奇心に従ってまずはチャレンジしてみることの重要性を学びました。「自分には無理」と思ったことでも、少し背伸びをして取り組んでみると、新しい世界に出会うことができるかもしれません。「新しい自分」を見つけるために、高専で私たちと一緒に学びませんか？

研究活動で得られた経験

とがし ゆうき
富樫 侑生
産業技術システム工学専攻2年



私は、ナマコに存在するアミノ酸について研究を行っています。本研究室ではナマコに関する研究は初めてだったので、先生と様々なことを試みながら研究に挑んできました。その研究成果が認められ、東北・北海道地区専攻科産学連携シンポジウムでは最優秀賞を受賞することができました。高専生活で得られた経験は今後の活動の自信につながります。就職先では高専での経験を糧に色々なことに挑戦していきたいと思っています。



専攻科東北地区産学連携シンポジウムにて最優秀賞を受賞

